

国際貿易において気候変動がもたらす影響

足達 花菜

指導教員 小谷浩示

研究背景

経済のグローバル化が加速している中、国際貿易は各国経済成長の中核としてその重要性を増しながらも気候変動の影響を免れない、とされている。既存研究は、気候変動、特に気温上昇が低所得国の輸出成長率を低下させる、と示したが、気候変動が如何に国際貿易を通じて国家間経済格差へ影響を及ぼすのか、十分に明らかにしていない。

研究目的

本研究は、気温と降水量は各国の輸出成長率とその分布・格差にどのような影響を与えるのか、計量経済分析を行う。

研究方法

1963年から2001年迄の各国の気候と貿易データを収集し、気温と降水量を説明変数、輸出成長率を被説明変数としてパネル分位点回帰分析を行った。

分析結果

第一に、気温上昇は低所得国の輸出成長率を一様に低下させ、その影響は輸出成長率の低い国程、気温上昇による負の影響が大きい、と示された。第二に、高所得国においては、気温上昇が正の影響をもたらす、或いは、低所得国と比べて小さい負の影響に留まる、と確認された。第三に、降水量増加は、低所得国の輸出成長率を概ね一様に押し上げる効果を持つ事が示された。

考察・結論

気温（降水量）上昇が低所得国の輸出成長率を低下（上昇）させるのみならず、貿易を通じた国際的経済格差を拡大（縮小）させる可能性を示唆している。